

品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン素案（案）

- 目 次 -

第 1 章 文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定の背景・位置づけ	1
背景	1
位置づけと役割	1
第 2 章 現状と課題	3
歴史・伝統と新しい魅力が共存するまち・しながわ	3
人情あふれ自主性に富んだ人々の多彩な活動に支えられているまち・しながわ	4
文化芸術・スポーツ活動をより身近なものにしていくために	5
第 3 章 文化芸術・スポーツ振興を通じた将来のまちの姿・基本理念	7
第 4 章 7つの目標と施策の方向性	8
目標 1：区民一人ひとりが楽しみ、つくり、支える	9
目標 2：創造・発展につなげる良質な機会を提供する	10
目標 3：さまざまな資源を活かす	11
目標 4：伝統文化を継承発展させる	12
目標 5：将来を支える次世代を育成する	13
目標 6：連携・協働によりさまざまな資源や活動をつなげる	14
目標 7：まちづくりにつなげ、しながわの魅力・活力を輝かせる	15
第 5 章 ビジョンの実現に向けて	16
区民への期待	16
企業への期待	16
区の役割	16

第1章 文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定の背景・位置づけ

背景

品川区では、平成20年3月に品川区基本構想（以下、「基本構想」という。）を策定しました。また、同年4月には、品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例（以下「まちづくり条例」という。）が施行されました。基本構想を受けて、平成21年度から30年度までの長期基本計画も策定され、新たなまちづくりが始まっています。

基本構想では、3つの理念の1つとして「伝統と文化を育み活かす品川区をつくる」を掲げています。また、まちづくり条例では、「文化芸術およびスポーツの振興に関する施策を総合的に推進することにより、区民等の自主的な文化芸術活動およびスポーツ活動を促進し、潤いのある健康で活力に満ちたまちづくりに資する」と謳われています。

長期基本計画においては、第一の都市像「だれもが輝くにぎわい都市」の基本方針に「伝統と文化の継承と発展を図る」と「生涯学習・スポーツを振興する」が掲げられ、今後、具体的な事業が推進されていくことになります。

世界人権宣言では、文化芸術は人々の権利であると宣言しています。国においても、文化芸術振興基本法やスポーツ振興法に基づくスポーツ振興基本計画の中で、文化芸術を「豊かな社会を形成する上で欠かせないもの」、スポーツを「豊かで明るく活力の満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なもの」とし、共に振興していくとしています。

いずれにおいても、これから成熟した国際社会において、さらに未来を創造し、人々が健康で豊かな生活を形成するため、文化芸術・スポーツが重要な役割を担うということを述べています。

こうした背景を受けて、文化芸術・スポーツ振興の総合的な取り組みの理念と方向性を明らかにするために、品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン（以下「本ビジョン」という。）を策定するものです。

位置づけと役割

基本構想の考え方を受けて

本ビジョンは、基本構想が描く品川区の将来像「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」を、文化芸術・スポーツを通して実現していくための理念と方向性を示す役割を持っています。

長期基本計画の実現すべき都市像と文化芸術・スポーツの振興

本ビジョンは、基本構想の3つの理念の1つである「伝統と文化を育み活かす品川区をつくる」のみならず、これらの理念全体をも見据えて策定されるとともに、長期基本計画が描く5つの都市像を実現するため展開される各施策の方向性を示し

ていくものです。

文化芸術・スポーツのまちづくり条例が示す振興の方向性を踏まえて
まちづくり条例では、品川区が「文化の香り豊かな近代都市」として発展していくためには文化的なまちづくりが必要であり、文化芸術とスポーツのもたらす
恵沢がまちづくりに活かされ、品川区が心豊かなにぎわい都市としてさらに大きく
発展するために、文化芸術とスポーツの振興が必要であるとしています。

「にぎわい都市」を実現するために
基本構想やまちづくり条例、長期基本計画が言う、「にぎわい都市」という大きな目標を、文化芸術・スポーツの振興を通じて実現するための方向性を示すものです。

このように、本ビジョンは、文化芸術・スポーツの活動を通して区民が活発に活動し、交流し、つながっていくことで、新たなにぎわいを作り出し、そのにぎわいが持続して活力のある地域社会が実現されていく原動力となるよう、振興のあり方を示すものです。

《文化芸術・スポーツ》

品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例では、第2条において以下のように定義している。

- ・ 文化芸術： 文学、音楽、美術、演劇その他の芸術、伝統芸能、伝統的な年中行事、文化財、生活文化等をいう。
- ・ スポーツ： 運動競技および身体運動（キャンプ活動その他の野外活動を含む。）であって、心身の健全な発達を図るためにされるものをいう。

《世界人権宣言》

1948年国連総会で採択。文化芸術にひとつの項目をさき、第27条で「すべて人は、自由に社会の文化生活に参加し、芸術を鑑賞し、及び科学の進歩とその恩恵とにあずかる権利を有する」「すべて人は、その創作した科学的、文学的又は美術的作品から生ずる精神的及び物質的利益を保護される権利を有する」と述べている。

《文化芸術振興基本法》

平成13年に施行。文化芸術・スポーツの持つ意義を大きく評価している。前文において、「文化芸術は人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壤を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものである」と述べている。

《スポーツ振興基本計画》

スポーツ振興法の規定に基づき、平成12年文部科学省策定。スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするものであること、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有していることなどが謳われている。

第2章 現状と課題

私たちのまち品川は、住・工・商がバランスよく混在しており、旧東海道品川宿周辺に見られるような風情が残る古い街なみや、大崎副都心のように再開発によって創られた近代的な景観など、さまざまな顔を持ち合わせています。

都心部に近接する都市でありながら、品川区に暮らす人々は人情に厚く、良い意味で「おせっかい」という言葉がよく似合うまちです。

区内では、企業等も含めた多様な団体・サークル等が、自主的・主体的にさまざまな文化芸術・スポーツ活動を行っており、熱心な指導者や運営者などの貢献が地域の活動をより活発にして、区民の心と身体の健康や技術の向上につながっています。今日の品川区の文化芸術・スポーツ活動は、まさに、こうした多様な担い手によって支えられ、そして培われています。

文化芸術・生涯学習の拠点としては、5つの文化センターや歴史館、総合区民会館「きゅりあん」やメイプルセンター等の公共施設が配置されており、地域の方々に親しまれています。また、区の内外には民間の劇場やホール等も多く、質の高い文化芸術が提供されています。

スポーツについても、公共施設の総合体育館や学校等をはじめ、民間のスポーツ施設等も区民に活発に利用されており、各地域では複数の団体が協力して競技指導や大会・教室の運営なども行っています。

こうした品川ならではのまちの姿や文化芸術・スポーツ活動を担い支える人たち、あるいは伝統芸能や文化・歴史的な財産や風土等は、品川のにぎわいを醸しだす大きな資源となるものです。

これら有形・無形の良質な資源が、相互に有機的なつながりを持ち、さらに活発化していくことが、これから文化芸術やスポーツの振興を図るうえで重要です。

歴史・伝統と新しい魅力が共存するまち・しながわ

多様なまちの姿

品川区には、東海道第一の宿場としてにぎわった「旧東海道品川宿」や古い歴史を持つ伝統芸能の「江戸の里神楽」、考古学発祥の地として全国に知られる「大森貝塚」など、多くの文化的・歴史的資源が存在しています。また、区内にはいたる所に昔からの寺社等も多く存在しており、古い街なみと合わせて区民や来街者に親しまれています。一方で、東京港を目前に臨むウォーターフロントの天王洲アイルや大型開発が今も進行している大崎副都心地区などには、新たに創られた近代的なまちの魅力があります。さらに、羽田空港の国際化等により、国際都市東京の表玄関としての役割も期待されています。このように、地域ごとに趣を変え、さまざまな

表情を見せるまちの姿は、まさに品川区の大きな財産の1つです。

伝統文化と後継者の育成

区内では、邦楽や茶道・華道などの団体が中心となり、小学校の教室や地域の文化施設等を利用して伝統文化に関する教室を開催するなど、伝統文化の継承の取り組みも熱心に行われています。一方で、指導者・育成者の高齢化に加え、技術習得の難しさなどが若者の活動離れを招いており、指導者・後継者双方の育成が大きな課題となっています。

地域交流の推進

各地域では、寺社の祭礼や催しが受け継がれ、地域が一体となったイベントとして活発に行われています。また、区民まつりや盆踊りでは「品川音頭」が定着しており、地域の盛り上がりにも大きく貢献しています。

こうした地域の風習や伝統行事、イベント等を活発化していくためには、新たに区に移り住んで来られた方も一体となり、積極的に参加できる雰囲気や仕組みを整え、相互に交流を深め、手を携えて盛りあげていくことが必要です。

人情あふれ自主性に富んだ人々の多彩な活動に支えられているまち・しながわ

活動の担い手

区内では、一般の団体・サークル等の活動はもとより、昼間区民である企業等の文化芸術・スポーツ活動も盛んに行われています。C S R活動の一環として小中学生を対象に演奏会やサッカー教室等を開催し地域と多様な交流を図るなど、文化芸術・スポーツ活動の振興にも大きな役割を担っています。

また、区内17地区にはコミュニティスポーツ・レクリエーション活動推進委員会(以下「スポ・レク推進委員会」という。)が構成され、施設の利用調整や団体間の交流、スポーツ教室等を主体的に行っています。品川・大崎地区では、このスポ・レク推進委員会を発展させ、いつでも、だれもが、気軽にさまざまなスポーツ活動に参加できる「地域スポーツクラブ」の設立準備が進められています。

一方、かつて区内のスポーツ活動の牽引役であった企業スポーツが減少して、活動団体の空洞化やレベルの低下なども顕著に表れてきています。

環境づくり

文化芸術・スポーツに関する区民意識調査では、区民の多くが、身近で気軽に利用でき、それぞれの活動規模に見合った施設の整備を望んでいます。

区内には、公共や民間の文化芸術・スポーツ施設が多く存在しており、こうした資源を有効に活用しながら区民が利用しやすい環境づくりに努めることが必要です。また、区や財団、民間の施設が相互に連携を図り、区民や品川区に働き・集う人等の活動への参加を促進するなど、さらに活動の裾野を広げていくことが大切です。

情報共有と協働

文化芸術やスポーツ活動が人と人をつなぎ地域を活性化していくためには、人ととの会話という小さなにぎわいや、地域が一体となったイベントのような大きなにぎわいを通じ、世代間を越えた交流の促進を図ることが必要です。

また、区民が文化芸術・スポーツ活動に参加し、心と身体が健康で充実した毎日を送るためにには、必要な情報を容易に得られ、交換できる環境を整備することも重要です。さらには、誰もが地域の一員として積極的に活動に参加し、コミュニケーションを活発化するような地域での協働も必要です。

文化芸術・スポーツ活動をより身近なものにしていくために

区民意識調査や、区内の文化芸術・スポーツ活動団体等を対象にしたグループアンケートや懇話会では、文化芸術、スポーツ分野の双方でおよそ7割を超える方が文化芸術・スポーツに「関心がある」と応えており、また「何かを始めたい」、「もっと技術を高めたい」といった意欲や関心の強さを示す声も数多くありました。

一方で、こうした活動への参加のあり方については、文化芸術・スポーツとともに「個人でビデオやテレビ等を観賞・観戦して楽しむ」といった形態が多くを占め、劇場や競技場などに出かけたり、自ら積極的に参加するといった参加の形と大きな偏りが見られます。

区内の行事やコミュニティに気軽に参加できる仕組みを整え、関心を持つ人々の意欲を実践に変化させていくことが、様々な活動の継承・発展と、魅力ある品川区のまちづくりにつながります。

《C S R活動》

「企業の社会的責任に基づいた活動」の意。企業が収益を上げ配当を維持し、法令を遵守するだけでなく、人権に配慮した適正な雇用・労働条件、消費者への適切な対応、環境問題への配慮、地域社会への貢献など、企業が市民として果たすべき責任をいう。

《コミュニティスポーツ・レクリエーション活動推進委員会（通称：スポ・レク推進委員会）》

学校を活動拠点としている地域のスポーツ・レクリエーションクラブで構成された連合組織で、区内17地区（およそ中学校区）に設置され、体育館の利用調整や地域へのスポーツプログラムの提供を行っている団体をいう。

《文化芸術・スポーツに関する区民意識調査》

平成21年3月に実施。文化芸術・スポーツに対する区民の意識を総合的に調査するため、2,000人（住民基本台帳から無作為抽出）を対象に、品川区・品川文化振興事業団・品川区スポーツ協会の三者が共同で行ったもの。また、広報広聴課でも区政モニターに対して同一の調査を実施した。

《区内の文化芸術・スポーツ活動団体》

社会教育関係団体：約2,000団体 / 公園運動施設利用団体：約4,000団体

《グループアンケート》

平成 21 年 5 月に実施。品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定にあたり、品川区の文化芸術・スポーツ活動の一翼を担う 87 団体を対象に、各団体の現状や意見などを伺うため、郵送形式で行ったもの。

《懇話会》

平成 21 年 6 月に実施。品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定にあたり、区内で活動している文化芸術団体・スポーツ団体や企業等の方から、活動の現状や意見などを伺うため、インタビュー形式で行ったもの。

参加団体数 / 文化芸術部門 : 7 団体 スポーツ部門 : 5 団体

キャッチフレーズ、将来のまちの姿

文化芸術・スポーツには、人に楽しさや喜び、充実感を与え、人生を豊かにする力があります。また、文化芸術・スポーツは人々のつながりを広げたり、あるいは地域の活力を高める役割をもっており、まち全体にとっての公共財としての効用もあると言えます。

品川区の文化芸術・スポーツの振興は、区民一人ひとりが何らかの形で文化芸術・スポーツに親しみ、楽しみ、つどい、つながり、会話が生まれていくような活動をさらに伸ばし、活性化していくような方向性が大切です。

区民がわがまちを愛し、誇りをもつことで、笑顔があふれる心豊かなにぎわい都市品川ができる、まちのにぎわいを求めて多くの人が訪れる、魅力があふれるまちにつながっていくのです。

理念1 人をつなぐ

文化芸術・スポーツ振興の基本は、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、区民一人ひとりが文化芸術・スポーツに親しみ、楽しさや潤い、充実感など、文化芸術・スポーツの持つ魅力を享受することにあります。

また、居住する区民だけではなく、品川区に働く人や区外から訪れる人など、品川区に集うすべての人々が多様な活動の担い手となり、交流や協働により人がつながることによって、さらに大きな喜びにつなげることができます。

理念2 まちの資源をつなぐ

長年にわたり培われてきた伝統文化や地域の特色ある文化芸術・スポーツ活動は、地域への愛着を深め、連帯感を強めるものです。

品川区の持つ歴史・先人達の精神を活かし、その活動を継承・発展させるとともに、有形・無形の資源を掘り起こし、再認識し、活用し、そしてつなげることによって、新たな活力の創造・発展が期待できます。

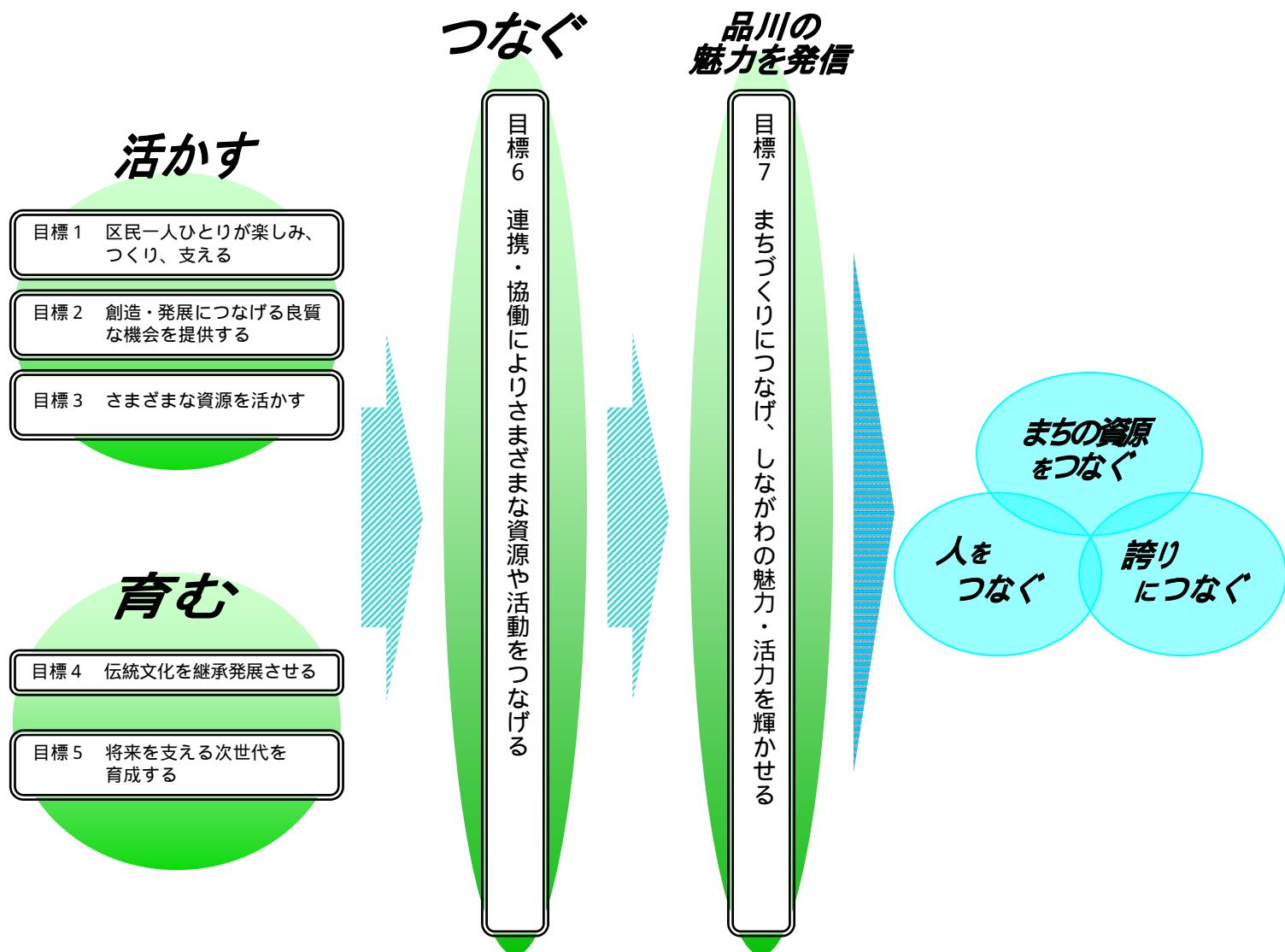
理念3 誇りにつなぐ

品川区には、地域の人の輪である「おせっかい」があります。都会にありながら下町の風情を残す品川は、文化芸術・スポーツの持つまちづくりの機能を活かしながら、さらに発展しまちの魅力を向上させる可能性があります。

そして、住んでいてよかった、働いていてよかったと感じるような、人々の生活に根ざしたにぎわいが生まれ、品川のまちの誇りにつながります。

第4章 7つの目標と施策の方向性

本章では、第3章で述べた将来のまちの姿と、それを築く3つの理念に基づき、将来のまちの姿を実現するための7つの目標と施策の方向性を示します。この7つの目標と方向性は、観光・都市経営・福祉・環境・教育などの分野とも連携を図り、総合的な展開も期待されるものです。



目標1：区民一人ひとりが楽しみ、つくり、支える

文化芸術・スポーツは、人に楽しさや喜び、充実感を与え、人生を豊かにする力があり、品川区内でも、さまざまな活動が活発に行われています。

一方で、区民意識調査によれば、文化芸術・スポーツへの関心度は非常に高いものがありますが、家の外に出て参加をしたり、自ら活動するような傾向が弱いことが見てとれます。また、「活動への意欲はあるが、時間的余裕や機会が無い」とする回答も多く、参加したくてもできない人がいる状況も見えてきます。

区民の文化芸術・スポーツ活動をさらに広げ、品川区というまちがにぎわっていくためには、子どもから高齢者までもっと多くの区民が文化芸術・スポーツを「する・みる・支える」の何れかの活動で関わっていくことが望まれます。

また、既に活動している人だけでなく、意欲はありながらもさまざまな制約があつて活動できない人も参加できるような仕組みをつくり、それぞれの人が楽しさや生きがいなどを感じられるようにしていくことが重要です。

加えて、地域で文化芸術・スポーツ活動をしている人たちが、自分の能力やノウハウ、知識を地域に還元する仕組みづくりも求められます。

区民の一人ひとりが、文化芸術・スポーツを「楽しみ・つくり・支える」ことで活動の裾野が広がり、芸術・学び・健康・体力づくりなど、地域に、まちに、文化芸術・スポーツ活動をする区民があふれるようになっていきます。

《施策の方向性》

すべての区民が文化芸術・スポーツに触れ・親しみ・楽しむことができる
環境づくり

身近で気軽に楽しめる、まちかどコンサートなどの取組み

地域で活動している人たちが、自分の能力やノウハウ、知識を地域に還元する仕組みづくり

区民が感動を共有できるような顕彰制度の充実

目標2：創造・発展につなげる良質な機会を提供する

文化芸術・スポーツにより「にぎわい」のある品川区にするためには、まず、文化芸術・スポーツの多様なプログラムが参加しやすい形で提供されることが必要です。

そして、区民が自主的に提供する文化芸術・スポーツの機会が、良質で創造・発展につながるような支援をしていくことが必要です。指導者の紹介、開催や運営の支援を行うことで、区民が提供する文化芸術・スポーツのプログラムが充実するとともに、さらに多様で良質な機会となっていき、ひいては活動する人たちの自己実現となっていくものと思われます。区や 品川文化振興事業団、 品川区スポーツ協会も、楽しみの深まりにつなげるような、良質なコンサートやスポーツ事業などを提供することが求められます。

また、ワークショップや参加型事業は、区民が協働し、創造の空間・時間を共有することで一層の達成感を得ることができ、文化芸術・スポーツを身近に感じることができます。今後は、こうした事業も積極的に展開していく必要があります。

さらに、区民挙げての芸術祭や大会などは活動の目標となり、レベルの向上や活発な活動を誘発することが期待できます。

一方で、こうした活動を側面から支える人たちのための環境整備も重要です。文化芸術・スポーツは「する・みる・支える」人の輪で創られており、活動の裾野を広げていくうえでは、運営に参加している方など、活動を支える人たちの参画を促すような環境の整備も望まれます。

《施策の方向性》

- 総合区民会館「きゅりあん」・総合体育館などでの多様なプログラムの提供
- 芸術祭や大会など、活動の励みとなるような場の提供
- いつでも・だれでも・どこでもスポーツ活動ができる、地域が主体となったスポーツクラブの展開
- 多世代が学ぶ機会の充実

目標3：さまざまな資源を活かす

品川区では、商店街のイベントなどさまざまな区民の活動が活発に展開され、それに活気ある地域社会をつくっています。こうしたイベントのほか、総合区民会館「きゅりあん」などの文化施設での発表会・演奏会や、スポ・レク推進委員会を中心としたさまざまなスポーツ活動なども年間を通して活発に実施されています。

また、区内には、区民向けの公開講座に実績のある大学をはじめ、民間文化団体や劇場・美術館などの施設が提供する優れた文化芸術の資源があります。さらに、著名なアーティストが在住しているほか、国内のトップリーグで活躍しているチームが所属する企業もいくつか存在します。これらの活動を担う人々も含め、区内には、文化芸術・スポーツの資源が豊富にあります。

こうした資源を掘り起こし、再認識し、品川区の文化芸術・スポーツを振興する上で、さらに活かしていくことが望まれます。

また、相談対応や情報の提供を行うことができる、ノウハウを持った専門的な支援組織があると、大型のイベントなどの効果的な事業実施につながりやすくなります。

このように、各活動の自発性や自立性を育んでいくよう、さまざまな資源を活かした支援や仕組みが求められます。

また、既存施設の有効活用などの環境整備も求められます。

《施策の方向性》

地域のさまざまな活動の再発見と資源化の取組み

民間文化施設や区内の研究機関・企業等との連携

情報提供・相談機能の強化

活動を支える人が活かされる仕組みづくり

目標4：伝統文化を継承発展させる

古くから品川湊や交通の要衝として栄えた品川区には、神社仏閣をはじめ、祭礼・伝承行事や神楽などの多くの歴史的な資産があります。区民まつりや盆踊りで区民に親しまれている「品川音頭」は、全国の「たのしい民踊」にも選ばれ、品川を「ふるさと」として思う郷土への愛着心と区民の絆を高めつつ、品川のまちの良さを次代に伝えています。旧東海道の史跡を人々が訪れ歩くなど、観光としての魅力も地域のにぎわいにつながっています。

このように、伝統文化は、人々の強い結びつきをつくり、郷土愛とにぎわいを育んできました。品川区の人情・風土を作り上げ、おだやかで住みやすい地域社会の基盤となってきたのです。

これまで、品川区の伝統文化は、それを守り伝える様々な活動によって、保存継承されてきました。地域の生活に根付かせ、にぎわいにつなぐため、今後もこれらを地域の宝として大切に保存するとともに、活用の方策を立て、区民に広く伝えていくことが必要です。

そのためには、こうした活動や取組みを育成・支援し、伝統文化に触れる機会を充実させていくことをはじめ、積極的な普及活動を行っていくことが求められます。

《施策の方向性》

地域における歴史文化の重要性の再認識、伝統文化の保存と継承の取り組み
伝統文化を活用した観光事業の展開

地域の自主活動団体やボランティアとの連携

品川歴史館の展示・情報発信機能の強化

目標5：将来を支える次世代を育成する

子どもたちにとって文化芸術・スポーツは、情操を豊かにするとともに、一人ひとりの個性を伸ばしていくものとして期待されています。また、人と人とのつながり、支えあいという大切な地域の風土、いわば品川らしさは、子どもたちが文化芸術・スポーツを通した活動に触れるなかで培われていくものです。

子どもたちは、将来の文化芸術・スポーツの担い手でもあります。品川区が、今後も文化芸術・スポーツの活動にあふれ、にぎわい、輝くまちであるためには、こうした将来の担い手が文化芸術・スポーツに親しみ、楽しみ、参加するという意識を子どものころから育てていくことが求められます。

また、文化芸術・スポーツが持つ、人々の交流の促進などの機能は、子どもたちに社会性を身につけさせるものでもあります。

こうしたことから、子どもたちが、文化芸術・スポーツに親しみ、楽しむ心を育むように、小中学校時代を通じた継続的な体験の機会を提供していく必要があります。

文化芸術・スポーツが地域の人のつながりを創るなど、地域社会にとって重要なものであることや、地域の大人との関わりのなかで、相互に理解し尊重しあうことの大切さを学ぶことができるような取り組みも望まれます。

《施策の方向性》

- 子どもたちが創造性を育む多様なプログラムの整備・促進
- 子どもたちの憧れを活動へつなげる体験・学習機会の提供
- 子どものころから地域の歴史を学び・体験する機会の充実
- 文化芸術・スポーツの活動を通じた、子どもたちと多様な世代間の交流促進

目標 6：連携・協働によりさまざまな資源や活動をつなげる

区内には、さまざまな文化芸術・スポーツの団体や個人の活動があります。また、企業においても、CSR活動のみならず地域との関わりを意識した文化芸術・スポーツ活動が行われています。

しかしながら、こうした各種団体や企業等の活動は、それぞれが独立した活動として行われていることが少なくなく、相互に連携・協働が図られていない事例も見受けられます。

懇話会や交流会などの機会を通じ、さまざまな活動を有機的につなぐ仕組みをつくり、ネットワーク化するなど、連携や協働を推進していくことが必要です。

さまざまな活動や団体等が相互に交流することは、互いのノウハウを補完し、活動の深まりや広がりを生んでいきます。また、それぞれの活動・団体をレベルアップするといった相乗効果も期待されます。

こうして生まれた人や組織、活動等のつながりが「品川らしい良い意味でのおせっかい」を創り、品川のにぎわいを担うまちの新たな資源となっていくのです。

多様な活動や団体・組織等の連携・協働を推進するには、区民等が必要に応じて区内の文化芸術・スポーツの活動の情報を十分に受け取り、発信することが容易にできる情報交換の基盤整備も大切です。

また、こうした情報基盤の整備は、連携や協働を進めるうえでの仕組みにとどまらず、機会の充実や人々の参画を促すうえでも重要です。

《施策の方向性》

活動団体、民間施設、企業等の相互交流と連携・協働の推進

懇話会などを通じた、活動や団体・企業等のネットワークづくり

区民が情報を収集・発信するための基盤の整備

目標7：まちづくりにつなげ、しながわの魅力・活力を輝かせる

区民の文化芸術・スポーツの活動が活発になることで、区内に多くの人の交流が生まれ、まちがにぎわい、区民が一体感を持ちながら暮らせるまちの実現につながります。そして、品川区に住む人も、働く人も、誇りを持てる地域社会となっていきます。

例えば、防災の面では、災害時における必要な助け合いや見守りにおいて効果をもたらすでしょう。文化芸術・スポーツの活動で多くの区民が行き交うことによって、商店街が求めるにぎわいも創出されます。区民の文化芸術・スポーツ活動によって、近隣セキュリティシステムのような地域が子どもたちを見守る仕組みも、さらに安心で安全なものとなっていくでしょう。

このように、文化芸術・スポーツによって活性化したまちのネットワークが商業振興や安全・安心などの取り組みにも波及していく、文化芸術・スポーツに直接関わっていない人にも、大きな効果をもたらすことにつながるのです。

文化芸術・スポーツの振興は、まちづくりの基盤となる人ととのつながりを築き、活気にあふれ、にぎわう地域社会を創出していくものです。

ここに掲げた、それぞれの目標が着実に推進されていくことによって、しながわの魅力は一層輝きを増し、区外から多くの人々が訪れたいというまちの実現につながります。

《施策の方向性》

本ビジョンを活かした基本構想に掲げる5つの都市像の実現
文化芸術・スポーツを通じた活力あるコミュニティづくり

第5章 ビジョンの実現に向けて

区民への期待

文化芸術・スポーツのまちづくり条例は、区民の役割として、自らが担い手であり、その活動によるまちづくりの役割を積極的に果たすよう求めています。本ビジョンが実現しようとする文化芸術・スポーツ活動によってにぎわうまちづくりを進めるには、区民や区内団体の自主的・自発的な、そして積極的な活動が求められます。

企業への期待

区民や地域の文化スポーツ関連団体の他に、企業なども文化芸術・スポーツ活動の重要な推進役です。区には、民間施設の劇場や美術館、優れたスポーツ活動をしている企業スポーツなどが存在しています。従来の企業活動に留まらず、品川区の文化芸術・スポーツ活動を支える一員となり協働して取り組むことが望されます。また企業で働く人たちも昼間区民として、地域社会を形成する一員であり、区民・区内団体と同様に、品川区の文化芸術・スポーツをともに推進していくことが望まれます。

区の役割

区には、こうした区民との協働により、にぎわうまちづくりを進めていくことが求められます。

文化芸術・スポーツの振興事業においては、芸術祭の実施や地域スポーツクラブの創設などの先導的なプロジェクトを開拓し、本ビジョンが示す方向性の具体化に努めることも重要です。

その一方で、基本構想に掲げる5つの都市像を推進する各事業が、文化芸術・スポーツによる「にぎわうまち」を実現していくよう配慮されなければなりません。各事業を推進していく上でも本ビジョンが示す7つの目標を視野に入れ、施策における連携など、さまざまな施策の展開において、にぎわうまちをつくるという視点が考慮されていくことが望されます。

また、区の関係機関である 品川区文化振興事業団と 品川区スポーツ協会は、本ビジョンが示すまちの将来像を区と協力して実現していく役割を持っています。財団という民間組織の柔軟性や機動性を發揮して、一層区民の活動を支援し、誘導・牽引していく役割も求められます。